

慈眼

第14号

発行所
藤津郡塩田町大字 学成院内
五町田甲1307
TEL 09546-6-2285
FAX 09546-6-2771

日蓮宗佐賀
教化センター

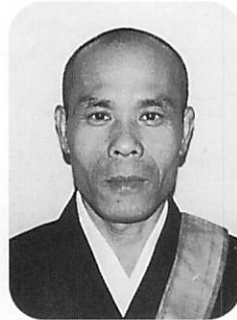
発行責任者
小寺大誠

印刷所 中野印刷所

社会教化事業協会

会長として

妙藏寺住職 藤尾成能



今般 思いがけず佐賀県日蓮宗社会教化事業協会の会長職をお預かりする事になりました。先代会長の宗務所長就任に伴う事とはいえ、もとより浅学非才、その任を全う出来るか大いに疑問ですが、管内皆々様のご支援ご配慮を頂きなんとか任期を勤めさせて頂く所存です。

日蓮宗社会教化事業規程によれば本宗の社会教化事業は、祖願に立脚した社会の平和と福祉に寄与し、社会浄化に貢献することを目的とする。と謳っています。具体的には、国又は地方公共団体の法令に準拠して行う事業と、そうでは無い事業に分かれ

ています。いわゆる社会福祉法人を主体とする各種保育園、老人施設等が前者であり、全国本宗寺院で展開されている相談室等が後者になるかと存じます。さて現今少子高齢化と何かと騒がしい事です。実は現在もそしてこれからも問題の多くはこのキーワード、少子高齢化にあります。平成十二年の現在日本の人口は約一億二千万人強で、約二十年後には、最大の一億三千万人の国勢となる様です。現在三・五人に一人の割合で六十五歳以上の老人を扶養しているのですが、二十年後には、二人弱の若者が一人の老人を扶養する事になるそうです。現在五十歳前後の団塊の世代の人々はオチオチ老人になれない様です。

さて現今、青少年の犯罪には目を覆うものがあります。中でも、この春、佐賀県で全国的に有名にしたバスジャック事件は、記憶に新しいところです。十七歳の少年の犯行は少年法の改正等を改めて社会に突きつけました。これからの問題の根底には二つの事が挙げられるようです。一つには家庭での父親の存在感の無さが挙げられましよう。母親は戦後半世紀を経て、ますます

家庭内での存在感を強くしている様です。父親の仕事第一主義により、家庭を省みず、子供達に家庭や社会でのモラルの喪失を招いてしまいました。二つには、子供達を取り巻く環境が豊かになり、物質第一主義となつていくことが挙げられます。私達の社会が物で栄えて、心で亡ぶと云われて久しいことです。その結果、子供達に我慢すること、耐えることを学ばせることが出来ませんでした。

さて七百年前に、宗祖日蓮大聖人は「蔵の財よりも身の財 身の財よりも心の財第一なり。」と申されました。この御遺文は本当に現実の日本社会をお救い下さる道筋、方向をご教示頂いています。つまりはどの様な時代、社会になろうとも私たちは日蓮大聖人の祖願に基づき行動する事が原則だと云えます。如何に地域社会に向けてお寺を開放出来るかが問われています。その一つの答えが最初に挙げた相談室といえましよう。宗門でも現在相談室の開設方法等その運営実施に向けて推進中です。現実の檀信徒の皆さんとのお付き合いの中で、分に応じて扶養し合い、積み上げて行きたい事なんです。そうすれば本宗の社会教化事業の目指す、祖願に立脚した社会の平和と福祉に寄与し、社会浄化に貢献することの大きな目的に沿うべき小さな一歩を築く礎石になると存じます。

合掌

きょうのついで

(かいつぶり)

昨今は「荒れる十代」と言われていますが、日本の戦後教育に本当に問題はなかったのでしょうか。

「教育の三原則」というものがありますが、即ち「体育、智育、徳育」の三つを指します。戦後日本は、物を造る事に全身全霊をかたむけ経済大国を目標に突き進んで来ましたが、人間の教育に於きましては「体育」「智育」には力を入れてきたものの、最も大事な心作りであります「徳育」を忘れてきてしまいました。想像を絶する少年犯罪が多発している今日、私達は、「物造り」でなく「人間(心)作り」を真剣に考えないと、本当の豊かな社会は遠い先の事になってしまいます。



立教開宗七百五十年
慶讃シンボルマーク

【特集】

《日蓮大聖人のご生涯》

前号より引き続き日蓮大聖人の
ご生涯をたどって参ります。

《前号まで》

千葉県小湊でお生まれになられた日蓮大聖人は清澄寺で出家された後、諸国を遊学されついに、最勝の法を覚知されました。



《開宗宣言》

《開宗宣言》

法華経こそがお釈迦様の真実の教えを説かれた経典であると確信された日蓮大聖人は、両親や師匠の待つ故郷へと向かわれます。法華経によれば、末法の世にこの経を弘める者には様々な迫害や法難が待ち受けている、とありますが日蓮大聖人は、「これを申さば必ず日蓮の命となるべしと存知せしかども、虚空蔵菩薩の御恩を報ぜんが為」とまさに命をかけて弘経なされる決意をされました。ついに

一二五三（建長五）年四月二十八日、出家得度なされた清澄寺の旭ヶ森にて東方のはるか大平洋上から昇りくる朝日に向かって力強く「南無妙法蓮華経」と初めてお題目を唱えられました。これをもって我が宗では「立教開宗」と申します。その後、それまでの名（蓮長）を（日蓮）と改名されました。その由来は「明らかなること、日月に過ぎんや、浄きこと蓮華にまさるべしや。法華経は日月と蓮華なり。ゆえに妙法蓮華経と名づく。日蓮又、日月と蓮華との如くなり」と申され、闇を照らす日月、泥沼の中にあっても美しい花を咲かせる蓮華。そのように世の中の人々を救済していくこう、という決意のこもった改名なのでした。
旭ヶ森での立教開宗の後、清澄寺にて初めての説法が開かれることになり、大勢の人々が持仏堂に集ってききました。そこには地頭の東条景信をはじめ多くの念仏の信者がいたのです。その大衆に向い日蓮大聖人は「法華経以外の法を尊び念仏や禅の信仰をする為に色々な災難に見舞われるのである。法華経こそが真実の仏法なのだ」と仰せになられました。すると聴衆のほとんどの念仏信仰の者は憤り、東条景信は日蓮大聖人を殺してしまえというほどに激怒しました。その後、日蓮大聖人は故郷を後にし、再び鎌倉に出られ法華経

伝導の決意をなされたのでした。

《鎌倉辻説法》

鎌倉に入られた日蓮大聖人は松葉谷に草庵を構え、そこを拠点に本格的な法華経流布の活動を開始されます。当時の鎌倉は天変地異や火事や疫病などに再三見舞われ、庶民はまさに地獄の苦しみを味わっていました。こうした状況の下で日蓮大聖人は民衆を救済する為に鎌倉の街で「法華経に帰依せよ」と呼びかけます。しかし、その叫びは念仏や他宗の信心に固まった大衆の反発と憎悪を買えばかりで罵倒や投石が絶えませんでした。しかし、日蓮大聖人は、法華経弘通には迫害を受ける事は、すでに法華経に予言されている通りの試練であり、まさに法華経の行者である確信を深めていかれたのでした。そして、その日蓮大聖人の熱心な布教活動により、弟子や信徒も数を増し次第に日蓮教団の形成がなされていったのでした。



《鎌倉辻説法》

技術本位 **佐賀の老舗** 信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社

草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) **30-4040**

南佐賀草苑本店 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) **25-1255**

寺院紹介 (十二)

《妙光山 常照院》

佐賀市本庄町鹿ノ子

二二〇六一三



ふくやま ちげん 福山智彦住職

常照院は、佐賀市の南西部に位置し、佐賀駅より本庄東与賀線のバスに乗り、鹿ノ宮前にて下車し、徒歩十分の所にあります。

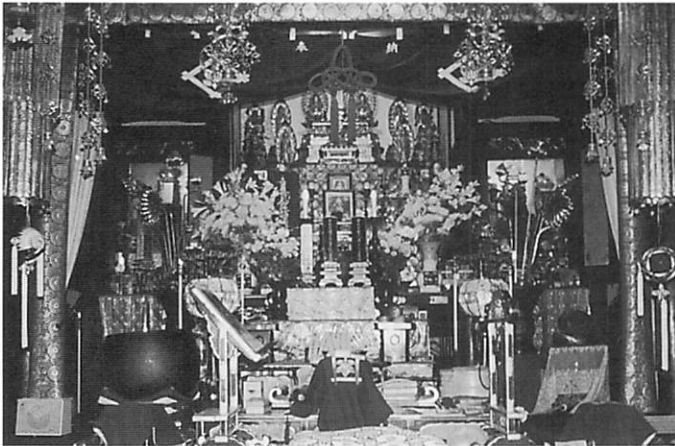
【歴史】

当山は、九州探題千葉胤継の副将であった。石井越後守忠国により永亨元年（一四二九）肥後高頭の京都本国寺派妙法寺の本立院日字大徳を開祖として現在地佐賀市本庄町鹿ノ子に妙光山本善寺として建立された。

元亀元年（一五七〇）より一時、村の南方へ移転したが天正八年（一五八〇）初代鍋島藩主鍋島直茂室陽泰院の父石井兵部少輔常延の逝去に際し現在地に復した。

元和元年二代藩主勝茂が鍋島家の祈願

所として、六十三石余りの知行地を与えると共に、義父常延の法名常照院殿常悦日教大神儀の法名にちなみ本善寺を常照院と改称することと命じ、その後、妙光山常照院と号した。更に寛永九年には祖母、陽泰院の供養料として三石余りの知行地が藩主光茂より下賜されている。寛文七年諸堂を焼失したと伝えられている。明治四年（一八七二）二月火災にあい全堂焼失した。それより三間六間の仮本堂であったが、明治四十五年に至って六間六間半の本堂と三間六間の庫裡が新築されました。



〈 常照院 御宝前 〉

更に昭和八年に庫裡の改築、鬼子母神堂の新築がなされた。

本堂屋根の老朽化が著しかったので、平成に入り本堂、鬼子母神堂の屋根の修理及び庫裡の改築が、平成七年度よりなされ平成十二年九月に至って工事が完成し、今日の姿となった。

【寺宝】

常照院は幾度の火災に遇い数多くの寺宝は焼失してしまった。

その中で、如水初祖の作、宗相尊像精薩諸師の本尊などを蔵している。



〈 常照院 全景 〉



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拜む心で尊い品を

梅谷佛具店
TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)

0120-39-0456

支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

TEL 092-806-7499

通産大臣認可 7産第2930号



株式会社 **冠婚葬祭こころの会**

三日月町大字久米2084-1 ☎72-3177・FAX72-3633

こころの会指定店

総合葬祭

有限会社

黄城

小城町270

☎73-3938・FAX72-3633